



TITLE:

あとがき

AUTHOR(S):

CITATION:

あとがき. 静脩 1969, 6(4): 6-6

ISSUE DATE:

1969-11

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/36557>

RIGHT:



工学部・教室図書室 合成化学図書室

百万辺裏門を入って左側、コの字型の建物工学部4号館（工化総合館）の1階にあり、合成化学教室事務室と一部屋を分かち合っているのが本図書室である。

昭和35年、工業化学教室より分かれて合成化学教室が創設され、次いで4年後、建物の完成に伴い教室事務室が形を整えた時、その一角を借りての図書室（図書コーナー）が発足した。この仮住まいは発足5年後の現在も続いている。蔵書冊数は約1500冊、購入雑誌数は和洋あわせて24種類、年間図書費140万円の80%はその雑誌の購入費である。

利用形態は24m²の狭いスペースに書架・閲覧机・ゼロックス等の複写機が置かれているため、騒音・閲覧者以外の人の出入りも激しく、また蔵書冊数も少ないため完全開架式をとっている。

目録体系はNDCによる分類目録を作成しつつあるが、なにぶん図書室職員は1人である上に、ほとんど教室一般事務に手をとられているのが現状で、図書業務に専心できず、利用者に迷惑をおかけしていることと思われる。今後、利用者の要望に答え一貫した蔵書構成の拡充、静かな閲覧室を備えた図書室の独立を希望する次第である。

あとがき 銀杏が散る季節となりました。さて大学問題にたいしては、すでに資料紹介欄に、その関係の単行書目録・雑誌記事索引を掲載してきましたが、今号は特に、比較教育学をご専攻になる教育学部の池田教授よりご寄稿をいただきました。決してわれわれは無関心・無気力のまますごすことはできません。深く広い視野に立って、積極的かつ真剣にとりくんでいく必要があると思います。

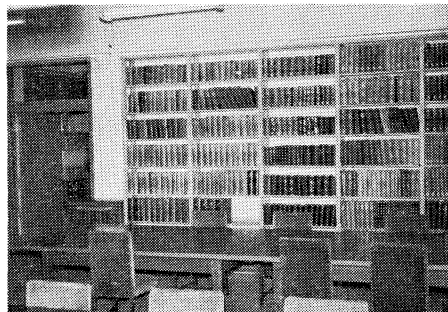
図書館（室）のことについて、どしどし「静修」にご投稿してください。

工業化学図書室

工業化学図書室は大正3年7月に設立され、以来長く赤レンガ建の旧教室の一角を占めていたが、昭和36年工化総合館（工学部4号館の一部）が完成されるに及んでその3階東北隅に移り、現在に至っている。書庫と閲覧室を合わせた総面積は約173平方米、蔵書は約14,000冊を数える。購入雑誌は和洋合わせて75種、年間図書費は昭和43年度で約314万円である。

利用形態は開架式であり、利用者は自由に書庫に出入りできる。利用者数は一日平均約100名、夏季は冷房装置が備えられている関係もあって利用者が特に増加する。職員は1名で、複写設備としてはゼロックス1台と35mmカメラ用複写台が備えられている。

当図書室は歴史も古く、化学関係の雑誌が豊富に備えられてもいるので、他教室、特に化学系教室からの利用者が極めて多く、工業化学教室の図書室というよりはむしろ工化総合館全体の中央図書室的な役割を果たしているのが特徴である。しかし、年を追って増加の一途をたどる雑誌類を収納するには、現在の床面積では明らかに不足であり、教官および学生からは、化学系5教室のための総合的な図書室を実現すべきであるとの声強い。



工業化学図書室